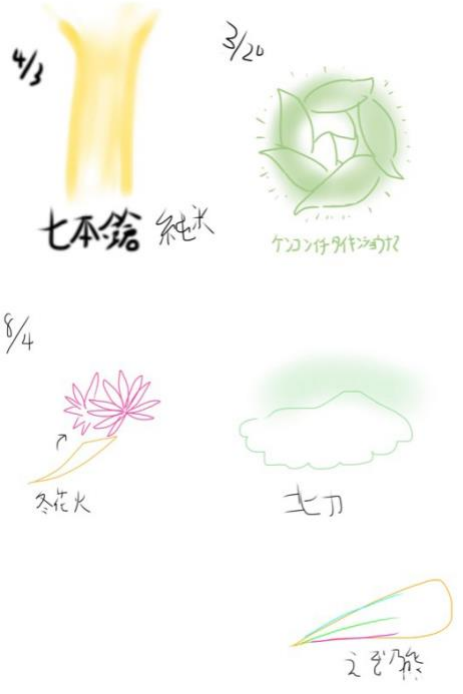
1. 付録

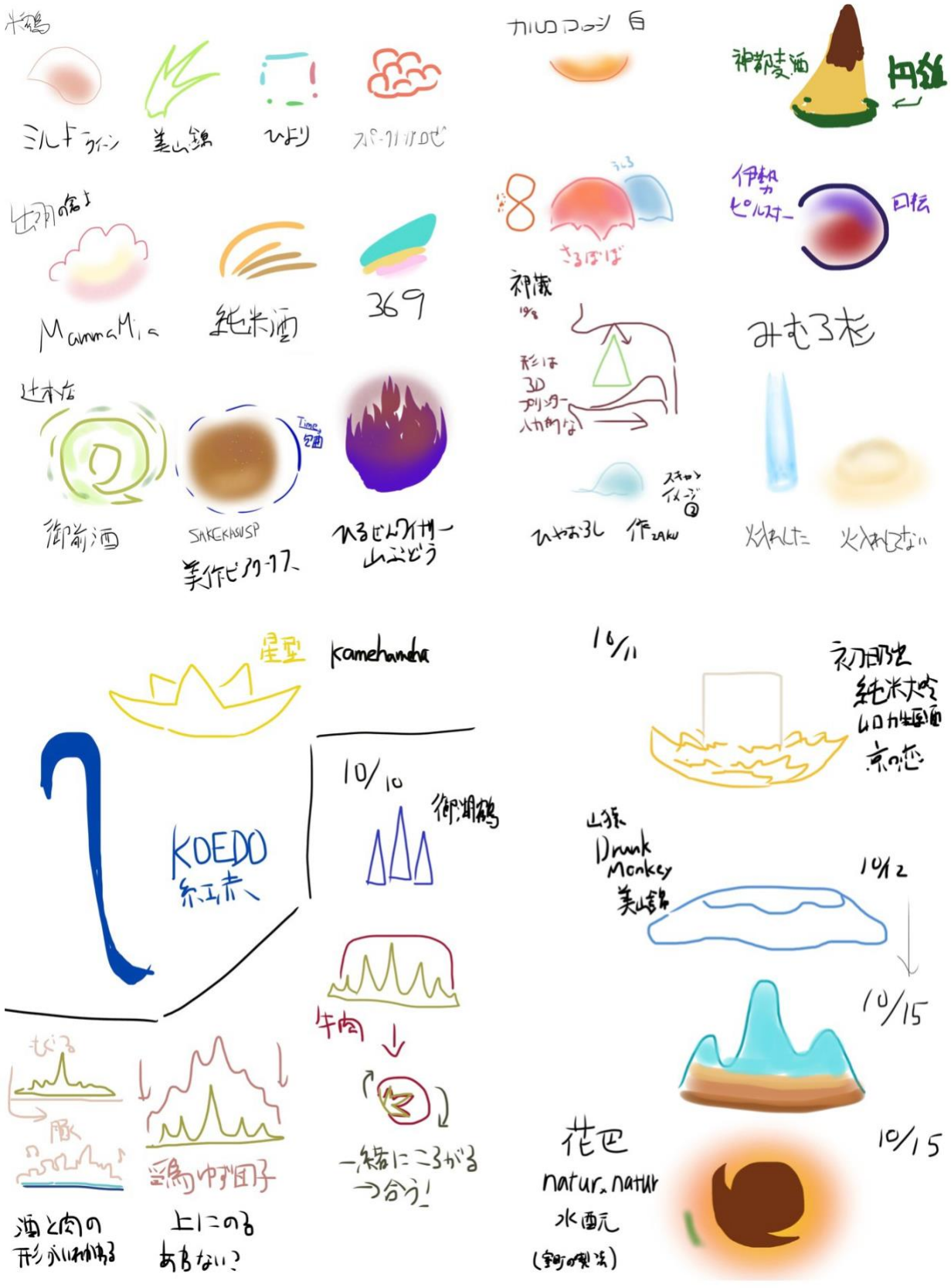
1.1. 筆者の日本酒テイスティングイラスト





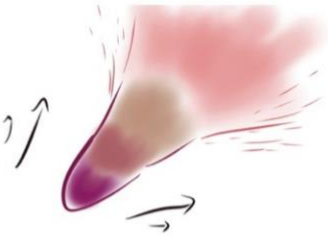





KOEDO
紅赤
10/10
御湖鶴
10/11
10/12
10/15
10/15
花正
natur. natur
水面元
(宇町の製法)
純米酒
369
御前酒
美作ビクトリー
牛肉
一緒にころがる
→合う!
上にのる
あるない?
海と肉の
形がいれかわる

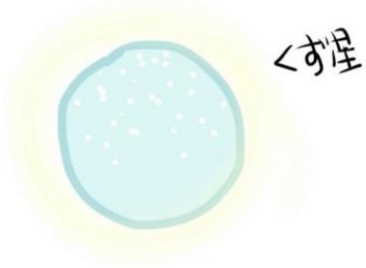


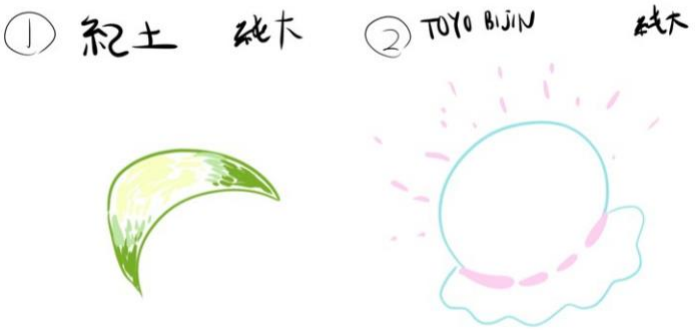
アサヒ生ビール黒生



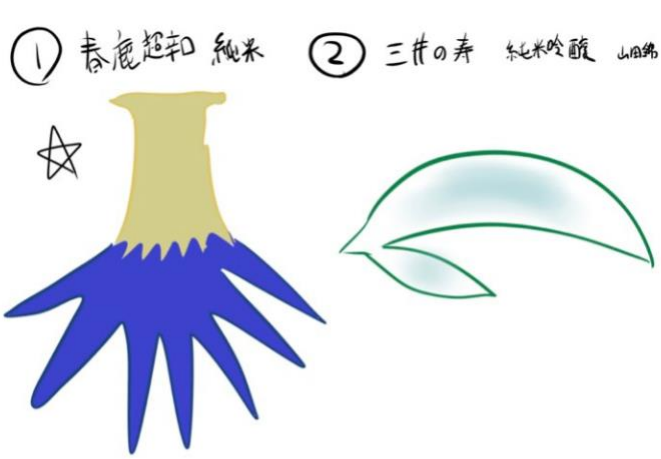
サッポロ生ビール黒ラベル







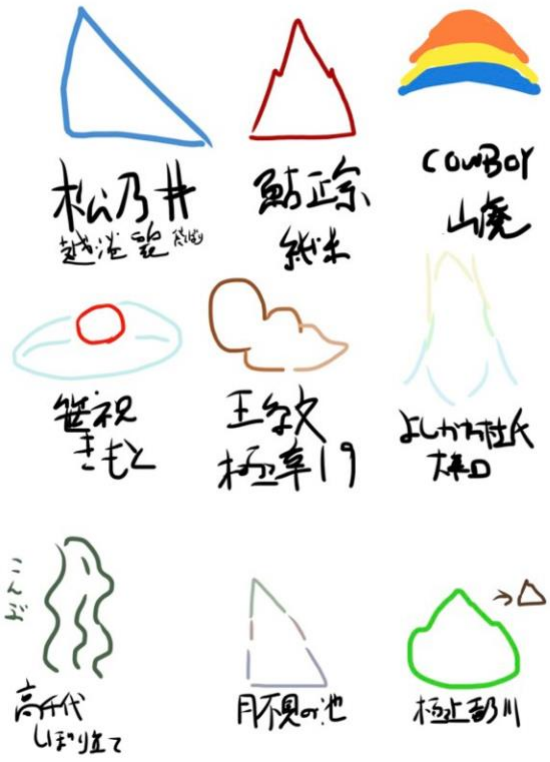


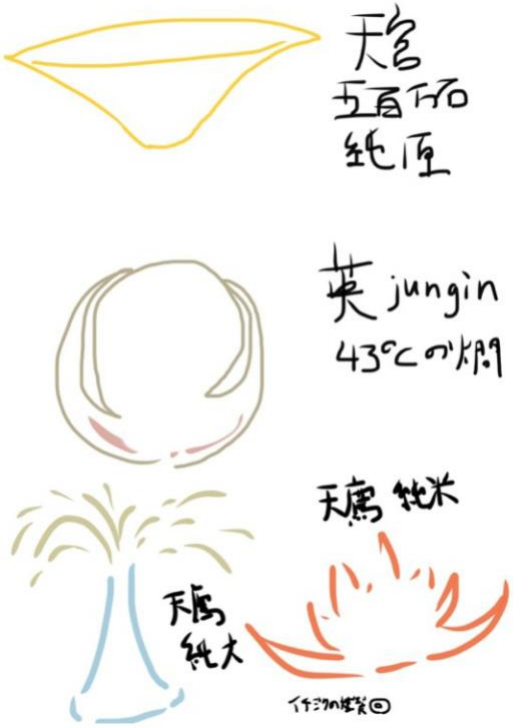


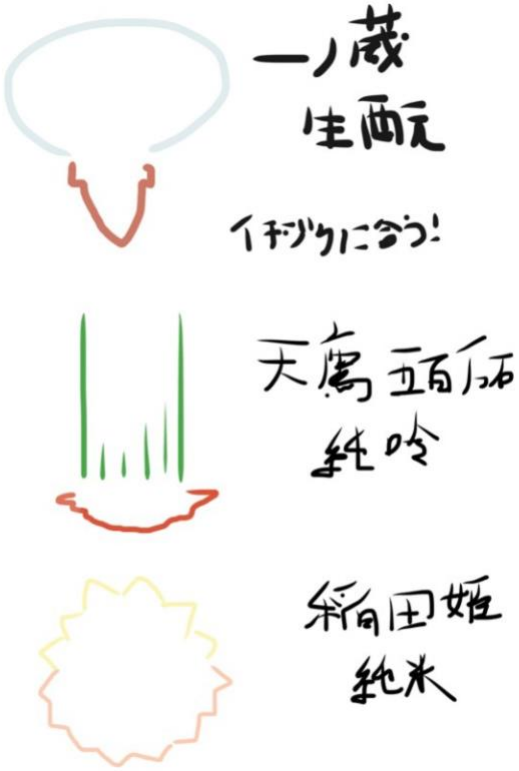


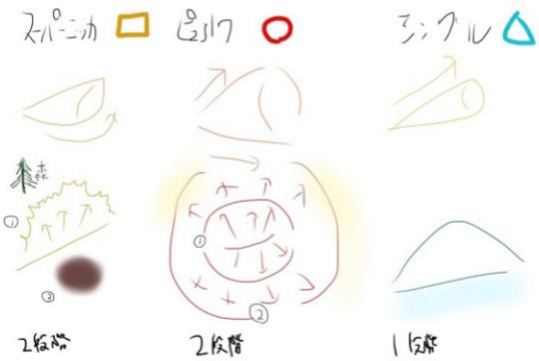





松乃井
越淡碧
鮎正宗
純米
COWBOY
山廃
笹祝
きもと
王紋
特立春17
よしかわ杜氏
特D
高千代
しぼり立て
月不見の池
極上酔川

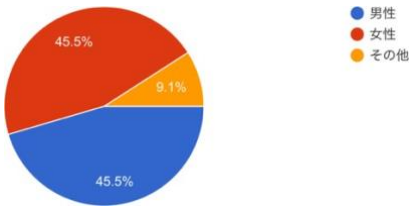

天宮
五百万石
純吟
英 jungin
43℃の燗
天鷹 純米
天鷹
純大
イチジクの提案⑪


一ノ蔵
生酛
イチジクに合う!
天鷹 五百万石
純吟
新田姫
純米

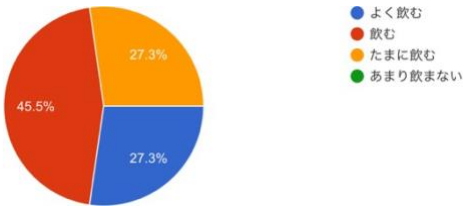

スパニカ
白川
ミンクル
2枚必
2枚酵
1枚原

1.2. アンケート結果

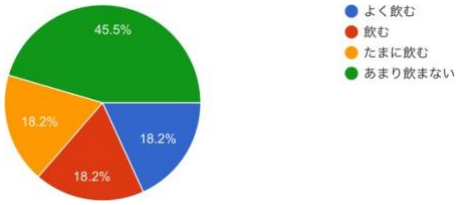
Q1. 氏名　　Q２. 性別　　Q３. 年代：20 代



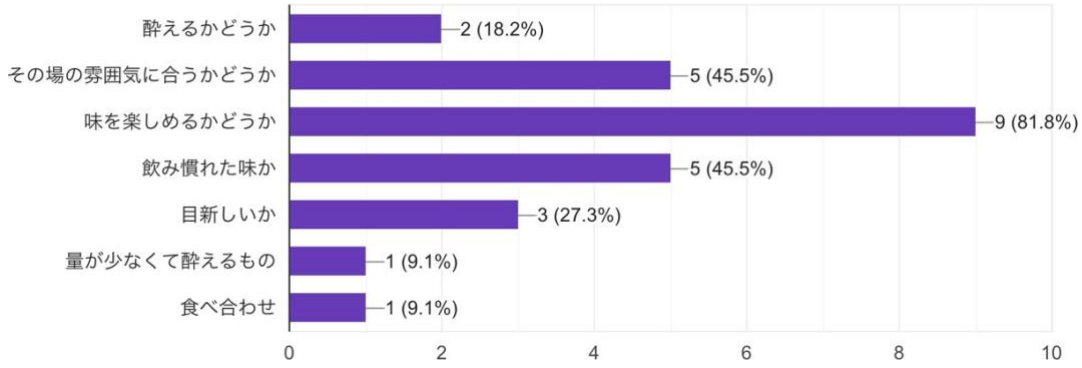
Q4. 普段からお酒を飲みますか？



Q5.普段から日本酒を飲みますか？



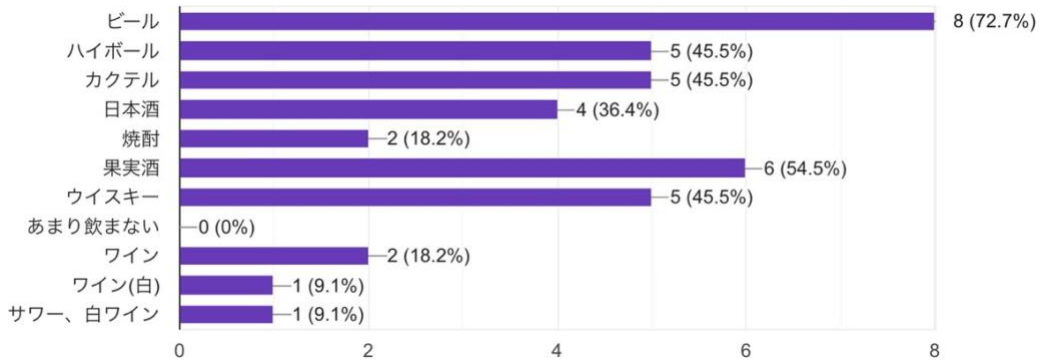
Q6. 普段お酒を飲む時、どのような基準で選んでいますか（複数回答可）



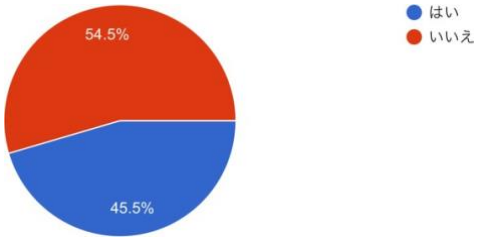
Q7. お酒の味を言葉にしたり、画像にしたりしてみた経験はありますか？



Q8. 普段どんなお酒を飲みますか？（複数回答可）



Q9. 普段から絵を描いたり、自分の思考などをビジュアル化する経験はありますか？



Q10.　以下は今回の実験のデータに関しての項目です。三つの画像のアップロードが済みましたら、こちらにチェックをお願いします。

Q11. 以下では、３つの日本酒の味の感想と、ビジュアル化した画像に関する補足説明をお伺いします。

日本酒①②③についてお伺いします。味の感想や、書かれた画像に関する補足説明（図形や色の意味、質感、画像で伝えきれなかったニュアンスなど）をご自由に記述下さい。

参加者A

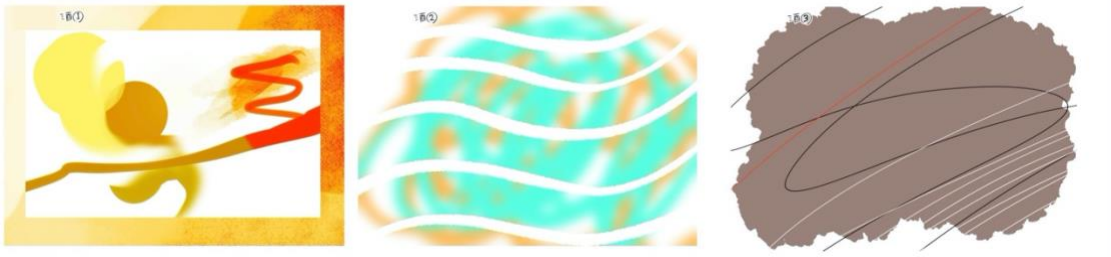


①フルーティーで甘い印象だったけど、飲んだあと少し棘みたいなものを感じた気がした。それでも一貫して甘い印象はあったので、暖色系の柔らかい色味だと思った。

②香りにお米のようなものを感じた。正直味としてはあまり好きではなく、どことなく「土」の印象を受けたので、(色味を上手く調整できなかったが)全体を薄く茶色で覆う形で描いた。

③アルコールというか、どことなく消毒液感を感じた。喉を通る時にクッと、キュッとくる感覚がいちばん強く、三角で消毒っぽい色で、稲妻のようなものを付け足した。

参加者 B

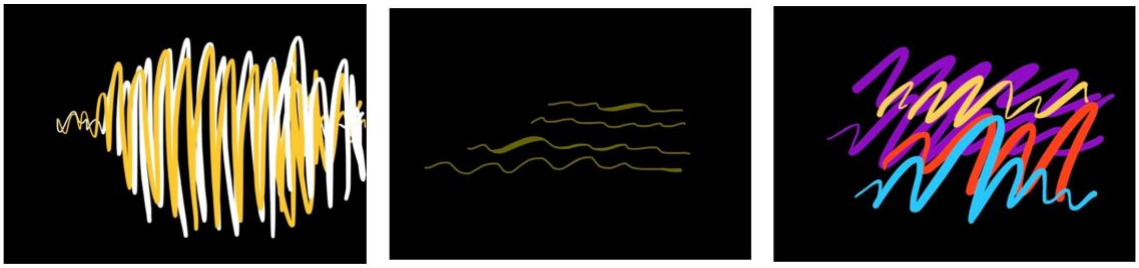


①左から右に味の印象のタイムラインの絵。後味の刺激。①～③の色選びは感覚。

②①よりアルコール感、ぼやけた感じとか。

③苦手だなという感情の書きなぐり。

参加者 C

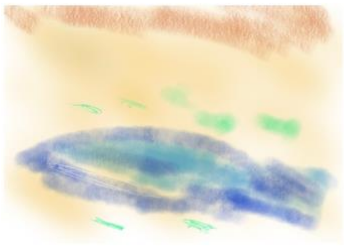


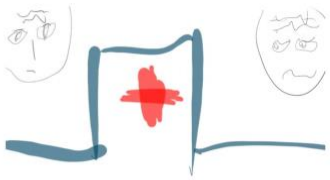
①最初は穏やかそうかなと見せかけて、そのあと強い波が来て、それが長く続く

②穏やかな波で、それゆえに奥行きが見えた感じ

③カオスな感じ。色んな波があちこちで騒いでる

参加者 D





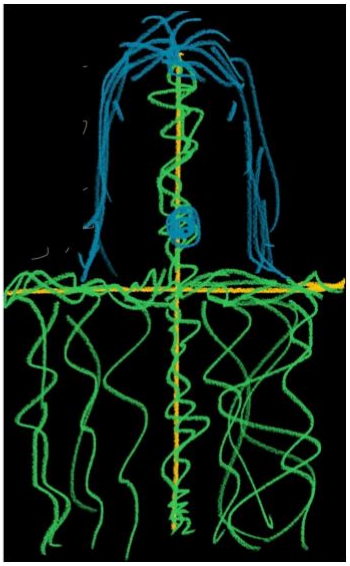
①甘みを感じたので優しめの温かい色。ブラシも曖昧なものを選択。青いのは鯨。暖かさの中に優雅で深淵なものを感じた。孤独さは感じなかったので、周りの緑の小魚たちも書いといた。

②個人的に好みではない。ヘドロのような、裏路地のようなイメージ（失礼すみません）ゲロを吐いたときにこんな口の広がりのような気がしたので背景色は嘔吐物のイメージ。

③なにか厳格なイメージを感じた。厳格といえば病院。権威も感じるので上から見下される老人。筆のタッチも前の 2 枚に比べ、硬いもの。

参加者 E



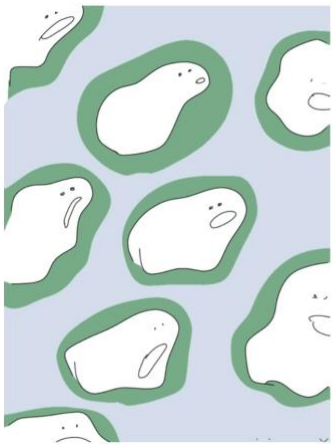
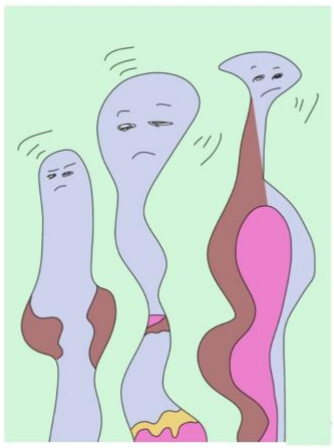
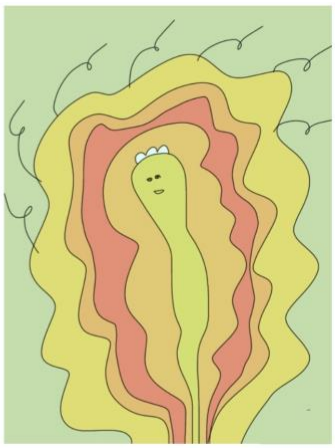


①まず生物の臭みを感じた。そのあとそれが海の匂いなのかなあと思い、生命の源のイメージをイラストで表した。

②酢酸を感じる。虫の外骨格を燃やしたときの匂いがする。匂いの質感は色としては茶色。家畜の内臓のような臭みがある。くさいといえばくさいがあたたかいくさみ。わらの匂いに近いかも。納豆のにおいがするかも。

③構造物のような匂い。アスファルトの感じ。他 2 つに比べて、無機質感が強め。結構辛い気がする。

参加者 F

①"ぷわぷわしてるイメージ 日本酒という感じがしておいしい

日本酒って単体で飲んでも味の表現が難しいと思った。比較してはじめてわかるのかも。

②"尖っているイメージ お米感ある気がする。ちょっとポップな感じ

さっきよりもドライなのかわかんないけど、強い人のイメージがあったのでそういうのを描いた"

③なんかグミみたいで柑橘っぽいのかなっていうフレッシュさがあるので緑っぽいイメージで描きました。なんかが中にあるみたいなイメージで優しさ？っぽく描いてみた

参加者 G





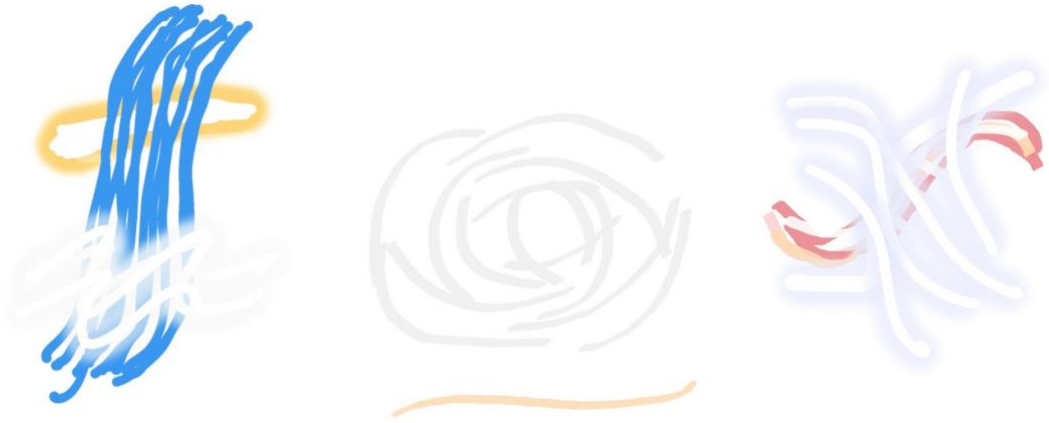


①爽やかで甘くて飲みやすい～

②美味しいけど石油っぽい、クセある、鋭め

③最初はフルーティーだけどあとからペーストっぽい平べったい感じに

参加者 H



①最初は川のような爽やかさを感じましたが、かなりアルコール分の強さを感じました。奥には明るさを感じ、アルコールが漂っているイメージです。

②燻製っぽさを最初に感じます。そのあとは水です。透明。喉に残るものもあまりなく、まっすぐ透明です。

③一番ビジュアル化するのが難しかったです。うーーーっすら暖色の感じがやんわりあります。一番好きです。

参加者 I

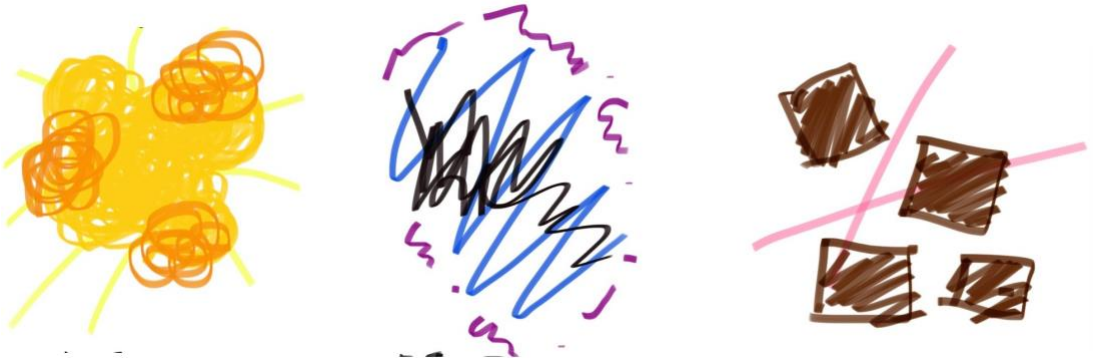


①すごく甘い。丸い甘さを持った飴の塊のようなイメージ→ふわっと広がる花びら→ポカポカとした気持ち

②さっぱりしていて、燻製のような匂い。剣菱に近いせいか、菱形のイメージ。茶色は褪せた古い感じのイメージ。広がるというよりは、沈んでいく感じ。中断の画像はその菱形が沈んでいく感じ。飲み慣れた老練さ？みたいなイメージがあるので、老人の後ろ姿のような情景をイメージした。

③ネバネバとした感触、イカ？のような癖のある味わい、奥に植物のような癖のある苦いような香り

参加者 J



①甘めで飲みやすい。気分の高揚、明るい印象。ちょっとお花っぽい香り。春の名の花畑のような風景。

②"辛い。ガツンとくる感じ。棘があって冷たい印象。株価の乱高下みたいな矢印。"

③どっしり感。土色。辛くはないけど飲みやすくもない。

参加者 K

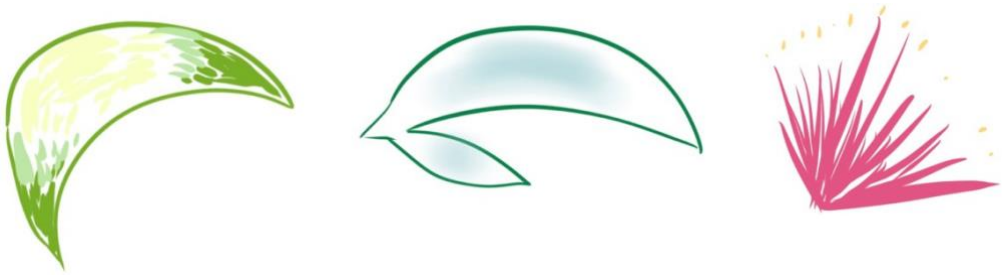


①最初だったため、中間色になった印象。2 以降の方がイメージ通りになってくる気がする。シェイプ的にもとりあえず丸くした感じ。だが絶対評価的にもどちらかという

と暖色系なイメージ。飲みやすかった。

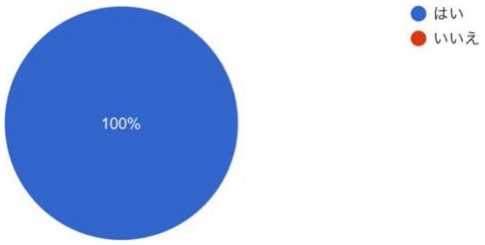
②"1 よりも薄い？印象。匂いが強く癖がある気がする。寒色系の印象を受け、シェイプも円形というよりは平たい印象

③匂いが独特？言語化が難しい…味に鋭さみたいなものを感じた。縦型のシェイプになったのはそれが影響している気がする。紫にしたのは 1,2 とは違うから、という理由だけかもしれない。



おまけ：筆者が同じ酒をテイスティングした時のイラスト

Q12. 「日本酒のビジュアルテイスティング」をする前と後では、日本酒の味わい方は変わりましたか？



Q13. Q12 で「はい」と答えた方は、どのように変化したと感じられますか？

- 酒の味の違いを楽しむ余裕ができた。日本酒は苦手だったが、人と楽しく飲むことができた。苦手度合いを他者に伝える手段としても、ビジュアルは役立ちそう。
- 酒に個性があるとわかったし、ゆっくり味わうといろんな味がするんだと知ることができた。これからは一口目の味わい方を慎重にしようと思う。
- より視覚化しやすい方向性で味わうようになった
- 小さな味の変化を気にして飲んでいたのでいつもよりお酒の味自体を楽しめたと

思う。

- もっときちんと味わうようになりました
- いままで食事に合うかしか考えてなかったけど単体の良さとかを感じたいと思えた。
- いままでは、キリッとしているかまろやかか、のような基準、あるいはどの食べ物に合うかでしたが、ビジュアルイメージのほうが抽象度の高い感じ方だと思いました。
- 他の概念、例えば色や形などから生じる感覚質と日本酒の味の感覚質がリンクするようになったと感じられる。
- アルコールの強さや喉のキュッとくる感覚以外のことに目を向けるようになった。絵に描くという点において、寒色系か暖色系かということをかなり意識して飲むようになった。
- 確実に日本酒を丁寧に飲むようになった気がする。味わうというよりは分析しようという意識が強かった。楽しむ、のとは違うかもしれない。
- 味に集中するようになった。酔えればなんでも一緒と思ってたけど、日本酒には味の個性が結構あるのだなと気がついた。

Q14. 「日本酒のビジュアルテイスティング」に関する感想・ご意見を自由にお聞かせください。

- 実験前はビジュアルは見えないと思っていたが、想像力をフル活用したらイメージが見えたため楽しかった。
- ゆっくり口の中でころがすように味わうとこんなに変化や酒ごとの違いがあるとわかってびっくりした。
- 飲み方の重心の置き方が変わった。自分が普段やらない方向でテイスティングすると、使う脳みその場所がかわるきがする
- いつもとは違うお酒の楽しみ方が出来て充足感があった。自分の体験自体もそうだが、言葉より他人がどう味を感じているかの感覚的な共有がしやすそうだなと感じた。
- 他の人と比べるタイムがあればもっと楽しいなと思いました！
- いろんな味の違いが知れて楽しかったです！ありがとう
- すごく楽しかったです。立体物に表す方法でもやってみたいと思いました。

- 今度料理のイラストレーションとかしてみたいなーと思った。
- 想像以上に面白かった。周りがお酒にどのような印象を抱いているか飲むのは、ただ好きか嫌いかを話しながら飲むよりとても面白いだろうなと思った。
- 非常に楽しかったです。ただお酒を飲むことが楽しいだけかもしれませんが…
- 個人の絵の表現力によって実験の結果が左右されるのではないかとちょっと心配した。

1.3. インタビュー全文

参加者A

筆者：　普段日本酒は飲みますか？

参加者A：　日本酒は飲まない。お酒は飲んでチューハイ。

筆者：　お酒を飲む時に何を感じたり考えたりしますか？

参加者A：　でも、なんか酸っぱいもの飲みたいなとかの時は桃味になるし、ちょっと今日は爽やかなやつにしようみたいになれば、レモンとか。

筆者：　結構味で決めているということですね。今回この日本酒のビジュアルテイスティングっていうのをしてもらったんですけど、率直な感想を聞いてもよいですか。

参加者A：　めちゃめちゃ面白かった。今まで日本酒は宿とか行った時に、食前酒とかもうそういうレベルでしか飲まなかったけど、 それこそ本当なんも考えてないから酒（アルコール感）強い！しかないけど、絵に描くっていうことを前提として飲んでるのもあるから、何色のイメージかなとかこういう図形で表せるなとか。今までみたいに強いだけで終わらず。

筆者：　割と味わい方が変わった的な。ありがとうございます。では画像の解説をお願いしたいです。

参加者A：　1 個目は、匂いを嗅いだときにフルーティというか甘い感じみたいなのがあって、飲んでからも甘かったけど、やっぱり日本酒のアルコールのヒュッていう感じはあったから、全体的に色味が多分柔らかめな色味なんだろうけど、うんちょっとなんかどトゲトゲした感じ、下まで落ちてくような。最初口に含んだ時は匂いも甘いけど、喉まで行くとあ、なんかトゲトゲみたいな抽象画です。

筆者：　なるほど。香りが上の方で、喉越しが下の方。

参加者A：　最初飲んだ時も甘い感じだなって思ったし、実際 3 種類全部飲んでから比較してもやっぱ甘い感じの印象だった。

筆者：　酒2はどうですか。

参加者A：　ちょっとお米っぽい感じを、なんか全然匂い違うなと思って。正直味はそんなに好きじゃない。アンケートにも書いたけど、なぜか土のイメージがあって、土？土しかわからんみたいになったから、色味調整がうまくいかなかったけど茶色みたいな感じに。なんだろう、全体を薄く覆ってるみたいな。なんか 2 番が一番難しかった。

筆者：酒 3 はどうでしたか。

参加者A：　これは申し訳ないけど、消毒液。匂いも味もなんかトゲトゲした感じ。暖色系か寒色系かの色みでとりあえずこれは絶対寒色系って。最初 2 つは割と暖色系だった。

筆者：　それはどこから来た？

参加者A：　香りかな。1 番最初は本当に甘そうな感じだったていうのもあるけど、そんなに甘味は感じなかったし、爽やか系とかなんかそっちな感じよりなのかな。

筆者：　なるほど。ありがとうございました。

参加者 B

筆者：普段お酒飲んだり日本酒飲む時とかって、どういうこと考えたり感じたりしますか。どうやって選ぶとか、飲んでる時どういう風に味わってるかみたいな。

参加者B：多分食事の時に選ぶことが多いから、それに合うの。肉だったらワインとか。お酒が好きだから、考えなく選ぶのはなんかレモンサワーとか、当たり触りないやつ。

筆者：結構食事と合わせて選ぶことが多いと。じゃあ今回日本酒のビジュアルテイスティングをやってみて、率直にどういう風に感じたか教えていただけますか。

参加者B：結構何かをビジュアルにすることは普段から一応やっているので、なんか単純にその味をビジュアル化することが結構面白いなって。普段やっぱりこう何かの感覚みたいなのはあるけど、五感で言うとやっぱり目で見たものとかが多いかなあと。あとは耳とか。うん、味で感じてそれをビジュアル化するのはなかなか。

筆者：普段食事と合わせるみたいなところと比べて変わったことはありましたか？

参加者B:食べる時の雰囲気とか､味の食べ合わせとかでいつも味を感じているんですけど、そうじゃなくてビジュアル化しようって思ってるから､味自体はなんかこういう感じだなとか、匂いがこんな感じだなとか、普段よりこうなんか敏感に感じたっていう。なんか、多分普段食事の席であんな 3 つが並んで出てきても、同じ日本酒として飲んじゃって、感じないと思うんです。それが感じれたのが良かったなと。

筆者：なるほど、結構違いも感じながら飲んでもらったんですね。じゃあ画像の説明も口頭でお願いできますか。おーすごい。

参加者B：なんか本当に感じたことを書いたって感じで。1 枚目のは左から右に味のこのタイムラインがあって、結構後味と、最初に感じた舌触りとか、それをなんか書いて。左から始まって、うん、右へ。

筆者：これは背景はどういう？

参加者B：感覚をそのまま抽出したからあんまり言語化できない。

筆者：あー逆に。

参加者B：こう！って。でもなんか味に感じた、舌への刺激とか。

筆者：タイムラインなんですね。これはなんか口の中で、例えば舌先の方からの奥の方みたいな位置関係というよりは、時系列。

参加者B：まあ時系列もそうです。なんかま普通に液体が胃まで入って、うん、まあ時間もそうだし、この液体のタイムラインも。

筆者：色合いはどういう印象でした？

参加者B：本当に感覚的なものなんで、白ワインとか結構飲むんで、最初のはそれに似てる。舌で触ってちょっと甘い、甘辛いみたいな。で、それの漠然としたイメージがそういう感じなので、頭の中で。結びついた色で描いて。

筆者：すごいな。背景付き、いいな。じゃあ 2 も見ていきます。

参加者B：なんか 1 がベースとしてあって、まあ一応水とか飲んで頭の中でもさっきと違ってこうかなっていうのはあって。1 回目の 1 よりなんかぼやっとしたとか、そういう味だな。なんかすごいスルって飲める。なんだろう、海みたいな。波のイメージ。

筆者：なんか割と寒色系が登場したのの理由も、その波に。形があるというよりは、動きがあった？

参加者B：なんか形は、多分時間があったらうん、普通に動画っていうか。あの、味、全体的にそうなんですけど、味をビジュアル化しようってなったら、なんか動く。私の頭の中では。

筆者：さっきも時系列っていう言葉があったんで、こう割と動きとかがあるからっていうことですね。興味深い、ありがとうございます。じゃあ、3 個目行きます。

参加者B：3 個目は一言で言うと舌に合わなかった。前の 2 つが結構好きなんで、それと比べちゃって、感情、どっちかっていうと味というより感情。感情が味に直結しちゃった。飲んだ量も一番少なかった。

筆者：美味しくない、みたいな。この赤い線も特に意味なく感じたままみたいな？

参加者B：こう（ぐちゃぐちゃと描くジェスチャー）。

筆者：なるほど。普段、ゼミでどういうふうにビジュアル化のレッスン受けてるんですか。

参加者B：結構 1 年生の時、情報の整理して人に伝えようみたいな。当時はまあ 1 年生なので何言ってるの？みたいな。高校も美術系で、アート寄りのことも、現代アートとかの割とそういう知識をつけて、抽象的な表現には抵抗がなかったので。

筆者：そういう人に味覚を視覚化するのは初めてって言ってもらえたのが嬉しい。ありがとうございます。

参加者 C

筆者：普段お酒は何飲みますか。

参加者C：日本酒かウイスキーかワイン。日本酒は悪酔いしないから、体質に合ってる。味いろんな種類あるし。辛口が得意で、お店の話を聞きながら、そこで選んだり。

筆者：普段から結構味の違いとかも楽しんでるんですね。自分で選ぶ時って、辛口とか、好きなものを選んでいく感じですか。

参加者C：うん、基本は人にこれ飲んでみてとおすすめされない自分で能動的に選ぶ時は、自分の好みを前提に選ぶ。

筆者：結構今回は一番詳しいレベルの方、あんまり日本酒飲まないって人多かったんで。じゃあ、ちょっと今回、この日本酒のビジュアルテイスティングっていう手法の率直な感想を教えていただけますか。

参加者C：率直な感想としては、ビジュアル…何か食べて例えるってのは、まあ、経験はあるんです。でもビジュアルにするっていうのは、なかったんで、一番強く感じた印象は、普段使わない脳みそを使ってるなっていうのが強かった。

筆者：普段の飲み方と比べてちょっと変わったとか、違う味わい方になってみたいなのはありましたか。

参加者C：そうなんか、要は視覚化するわけじゃないですか。だから、その視覚化するため に、普段はこういうところは見ないけど、うん。視覚化するためにあえて見るようになるみたいな感じで、そのためにちょっと飲み方を変える、変えるとまでは言わなくても、意識するところを変えてくっていう点では、ちょっと違ったかもしれない。

筆者：ありがとうございます。違う脳みそ使うっていうのいいですね、多分使います。じゃあ、画像を見ながら答えていただきたいんですけど、まず 1 個目。これはどういう意図とか意味がありますか。

参加者C：自分の中で、これは多分あんまりいないと思うんですけど、日本酒に限らず、味を例える時に、音楽やってるんですけど、元々波形って波じゃないですか、その波形で表す癖みたいのがあるんですよ。特にシンセサイザとか使ってる人にありがちな感じで。音にすごいいきなりガツ、ガツンと来るタイプの音とか、後からじわじわじわってって登ってくる音とか、ある種強い状態が長く続く音とか。なんかこう最初ドカンって来て、一気にこうなくなっちゃうとかの音があって。すごいいつもそれに引っ張られがちで、日本酒とかも。なんかそういう。まあ、自分の中で 1 番ビジュアルに近いものって何かなっていうとそれ。そう、まさにそういう波みたいな感じ。

筆者：これ（1 番目の絵）は最初はそんなドカンではなく。

参加者C：そうそう。音の最初のあたりのことアタックって呼んだりするんですけど、その最初の口当たり。舌触り、口当たりみたいのは、そんなに強さを予感させないけれ ど、みたいな。ちょっとワンテンポあけて強い味がして、それが長く続く。口の中で強さが残ってるみたいなそういう感じ。

筆者：だんだん大きくなっていくというか、
参加者C：だんだんではないていうか、ちょっと最初なんか初期微動みたいなのが来て後からだーって。

筆者：なるほど、なるほど、この色はどうでしたか。
参加者C：色はそのなんか別に共感覚があるわけではないんですけど、黄色っぽい味とか白っぽい味みたいなのがあって、音も黄色っぽい音とか白っぽい音みたいのがあったりするんですけど、なんかこのお酒的にはすごい、視覚的に見た時に、あのー、特にこの波が大きくなった後は、なんか白とか黄色系の音だなみたいな。

筆者：それってまず音が聞こえて、次にビジュアルに戻すんですか。

参加者C：脳の中で音が流れてるってよりは、波形が。

筆者：これは初めてのやつです。ありがとうございます。
参加者C：作曲とかしてる人の中で、一部界隈にこれ系がいる。半数くらいは分かり合える。そう、音楽的な感性があるってか、音楽やってるし、そういう変換しがちなところはある。結構便利、感覚器官として、耳で例えるのって。

筆者：なるほど。じゃあ、他のやつも。結構波形が多いんですか。

参加者C：なんか、全体的に多分波形になりがちかもしれん。

筆者：2 は、これは。
参加者C：基本的にすごい穏やかな感じの音で、さっきの音は本当にもう全面的に音がバーって感じですごい平面的なんだけど、2 回目のはなんか穏やかだから、逆に奥行が見えてくる。

筆者：奥行き。こういうベクトルの。時系列で言うとどうですか。

参加者C：さっきは普通に X 軸とY 軸だったけど、さらに Z 軸が奥行きで出てるみたいな。

筆者：色はどういう意味で。
参加者C：なんか自然的な何かを感じた。なんかさっきのは人の手が加わってるっていうのが強いけど、どちらかというと、こっちはなんか人の手加わってるプラスアルファ自然の営みみたいなのがすごく感じられて、で、そっち方向に引っ張られた。

筆者：自然の営みっていうのは、具体的にどういう自然。

参加者C：海とか山とか。なんか、大地の恵み。

筆者：なるほど。じゃあ最後 3 を見ていきます。おお、派手ですね。
参加者C：これが自分の中で、すごく 3 杯目が音にするのが難しかったと、音にするのが難しいていうか、すごい視覚化が難しくて、なんかまあめちゃくちゃノイジーな、とりあえず、ありとあらゆる音を同時にじゃんって鳴らしたような。

筆者：それは、音の中でそのありとあらゆる音色、音程？
参加者C：音色がそう、バーっと、なんかあっちこっちゃしっちゃかめっちゃかになってく。視覚的にもすごいビビットな、鮮烈な感じもしたし。うるささ的には奥行きとかあんま感じない。

筆者：でも、結構彩度って意味でこの感じが出てるんですけど。賑やかさが、色的には。

参加者C：うんそうだね。

筆者：ちなみに、1 番好きやったのと、1 番あんまりってやつは。

参加者C：それは明確で、1 杯目はなんとなくどれだろうなってのが想像つくぐらい 1 杯目が一番好き、3 枚目がちょっと微妙だった。

筆者：それは普段の感覚とも一致している。

参加者C：そう。自分の好みとか、まあ慣れかな。なんかやっぱり一番好きなやつが一番飲むじゃん。そう言う意味では慣れ親しんでるっていうのは、1 番かもしれない。

筆者：わかりました。最後に言い残したことは。全体を通した感想とか。
参加者C：やっぱりその普段使わない、なんかいわゆる脳トレってあるじゃない。それって、要は普段使わない脳の場所を使いましょうねっていう趣旨のものだと思うんですけど、なんかすごいそういうのに近い感じがして。僕はたまたまそういう視覚的な何かに絵を描いたりするってことをあんまりしなかったからだと思うんですけど、例えば、じゃあ絵を描く人が逆に音に例えてみようみたいな感じで、普段やってないようなメディア使って、例えさせたら、要は普段使わない脳みそを使うことになるじゃないですか。そうなると、すごく飲み方を意識する、そのどこに重点を置くかっていうのも、変わってくるんじゃないかなっていうのを考えました。

筆者：なるほど、確かに音っていうのやってみたくなりましたね、ありがとうございます。

参加者 D

筆者：普段お酒とか日本酒飲みますか。
参加者D：日本酒は飲まない。ていうのも、日本酒って缶で売ってない。買うなら一升瓶しか売ってない。そこまでして飲むかって言われると飲まないから。日本酒飲む機会って、居酒屋行って、まあ、日本酒飲もうよってみんなでノリに波長があったらなんですよ。

筆者：お酒は結構。
参加者D：缶チューハイとか、ウイスキーの瓶で割材で飲むっていうのは。日本酒ってなん か、俺の知識なんだけど、ロックじゃないストレートでしか飲めないっていうイメージがあって、そんな気軽に飲めない。

筆者：確かにあんまり割るみたいなイメージはないですね。

参加者D：ちょっと今日薄めにしとこうとか、調節がなかなかできない。
いやさあ、今日は日本酒飲むぞって覚悟を決めないと飲まないとハードルが高い、ってイメージはありますね。
筆者：ハードルが高い。じゃあ日本酒飲む時はどういうこと考えたり感じたりしてますか。
参加者D：実は記憶する限りでは、自分から日本酒を選んだことなくて。友達とか先輩とか大学の教員とかに、日本酒美味しい店あるって、それこそしのさんとかに連れてってもらって、これおすすめ飲んでみてって言われて、日本酒かーってなって。なんかこういう基準で日本酒選んでますっていうの、俺の中にはない。
筆者：飲んでる時は、なんかアルコール強いなとか、どういうこと考えてますか。特にない。
参加者D：普段ハイボールかサワーかっていう安い酒だから、日本酒飲むとなんか特別感、非日常感が若干あるなと。
筆者：ハイボールとかサワーは味を求めて、良いを求めて？
参加者D：酔いだね。味も許容できて、酔いたい。なんか日本酒でその酔いたい目的で飲むのすごいもったいない。あの、ふわってなんていうの醸造の樽のイメージが浮かんできて、なんか、それをガバガバ飲むのってなんか作ってる人に申し訳なくて。
筆者：なるほど。じゃあ今回の実験について、日本酒のビジュアルテイスティングの率直な感想を教えてください。
参加者D：味全然違うなって。前居酒屋行って、割となんかカクテル作ってくれるタイプで。ウイスキーの種類が結構いっぱいあったんで、ハイボールを何種類か比べてみたんだけど、 あんまり味違わないなって。気のせい程度かなって思ってさ。ウイスキーが。でも日本酒さっきストレートで飲んで、違うんだって。同じ日本酒ってジャンルなのに、個性があるなって結構わかりました。1 番目の甘いやつは好きだったけど、2 番目のドロドロした感じのお酒はあんまり受け付けなかった。
筆者：なるほど。その画像と味の感想を聞いていきたいんですけど、酒 1 は。
参加者D：初心者向けの日本酒なんじゃないかなって勝手に予想してるけど。優しい味でし た。まろやか。なんか一瞬、「酔鯨」かなって思ったの。なんか若干似てるのかなと。一瞬クジラがへばりついちゃったから。優しいイメージもあったし、なんかクジラってそういうイメージがあるから、優しい背景色にクジラ描いてこうかなっ て。あ、俺ダイビングやってたから、クジラって結構孤独なイメージがあるんだけど、あんまり、なんかそういう孤独のような寒さみたいなの感じなかったから。だから緑の小魚を周りに付け足しときました。優しくて、なんかなんだろ穏やかっていう。
筆者：じゃああんまり好きじゃなかったという酒 2 の方を。

参加者D：あんまりね。作った人が誰だかわかんないけど、ぶっちゃけゲロかなって。ゲロ吐いた時の嫌悪感を飲んだ時に感じるっていうのがあって、ちょっと僕は無理でした。

筆者：このカオス感は、味というか感情というか。

参加者D：怒り。ゲロ吐いてあ“ーくそっみたいな。殴り書きした感じです。好みの問題なんでしょうけど。ほんとにカオスで、なるべくなんかゲロっぽい感じ。彩度濃いめの色で攻撃感、嫌悪感強めで使ってみました。

筆者：面白い。じゃあ 3 つ目を。

参加者D：3 つ目はなんて言うんだろう。1 個目と 2 個目なんかすごいなんて言うのか、曖昧なイメージが湧いて来たんだけど、3 つ目はパキッとした、若干嗅いだときに薬っぽいような匂いがして、飲んでみたら、結構しっかりアイデンティティを感じて、そういう味がしたんで、これは病院だってなって。筆もなんか 1 枚目、2 枚目とかはなんかだか Blur って、ぼかしをかけた筆だったんだけど、3 枚目は結構はっきり見えたので、硬めの筆で 。病院から連想するとあの、権威を持ったお医者さんのおじさんの像が浮かんできたので。おじさん書いてみました。1 枚目、2 枚目はなんか割といろんなこと書いてたんだけど、3 枚目に関しては、本当にそのイメージ病院、権威、はっきりっていうイメージが印象的だったから、これ以上描けずに。くっきりしたイメージを。

筆者：色も病院から来た。

参加者D：はい。

筆者：なるほど。何か言い残したことはありますか。

参加者D：日本酒に限らずだけど、飲み物をイメージ化するっていうのに親近感湧かない。失礼だけど、発想がなかったので。食べ物とかだと産地とか。まありんごだったら、青森の風景が浮かんでとかあるけど、ビール飲んでて、なんか浮かんでくるかって言われると。飲みもんだしなって。食べ物と飲み物の境目ってなんなんだろうなって個人的に思ったのと同時に、飲み物をイメージ化しようっていう発想は面白いなと。ちょっと感心しました。

筆者：私が普段やってるテイスティングの形なので、これをみんなにやってもらったらめっちゃ色々出てきて、面白いっていうのが本当にあったので。ありがとうございました。

参加者 E

筆者：普段お酒、日本酒は飲みますか。

参加者E：飲まない。月に多分、でも週 1 ぐらい。

筆者：どういうの飲みます。

参加者E：カルピスサワーとかああいう飲みやすいサワー系

筆者：普段お酒を飲む時って、どういうこと考えたりしてますか。
参加者E：なんか、アルコール好きではない。なんか口当たりがいいので、周りがお酒を飲んでいるから、なんかこうみたいな感じも。

筆者：自分からお酒を選びに行くことはあんまり？

参加者E：うん。
筆者：OK です。今回日本酒のビジュアルテイスティングを慣れない中でやってもらって、率直にどうでしたか。

参加者E：一つ目は非常に口当たりが良い感じがしましたね。
筆者：味についてはあとで画像見ながらぜひ。ビジュアルテイスティング、全体的にどうでしたか。
参加者E：いや、難しいなと。味と匂いの質感をこう画像に変換するという。イラストを見たときに生じる情報と、その日本酒を嗅いだり飲んだりする情報を一致させるのが難しい。究極的にはあの日本酒の味ぐらいしか言えないのをなんとかしたい。難しい。

筆者：抽象的にしか言えない。
参加者E：そうですね。ただやっぱ言葉よりもイラストの方が伝えやすい気がしました。日本酒に関しては。他人に。

筆者：じゃあ画像を見ながら話していきましょう。酒 1 は。
参加者E：色はこういう感じだよなと思って、なんかね、ちょっと海っぽいなと思ってたんですよ。なんかこう生命の源感を感じたから、生命の源感ももイラストにしようと思った。

筆者：色はこういう感じっていうのは、青系。

参加者E：そうですね、色は青系だと。なんか、フルーティというか、爽やかな感じ。

筆者：へー、この赤とかは生命感。

そう。

筆者：形には何か意味が？
参加者E：ああ。いや、なんか本当にもう思いついたのバーってやって、あんまり意味はない気はしますね、わかりますなんか、意味がないことに意味はあったりとか。

筆者：フローみたいな。海、海の中でもこう深海っぽい？

参加者E：あー、確かに深海っぽいイメージ。

筆者：このテクスチャは。

参加者E：これはなんか 1 番太いやつにしたらこのペンのテクスチャが。

筆者：じゃあ、2 について聞いていきます。これはどういう。
参加者E：なんかちょっと昆虫みたいな匂いがしたから、多分そっからなんか茶色っぽいなと思って。

筆者：いや、色は割と匂いから来た。

参加者E：そうですね、色は匂いから。

筆者：さっきのも色、フルーティさ・爽やかさから青くなる、匂い。 匂い。味も若干あるのかな、でも、匂いの方が強い気が。

筆者：この真ん中の黄色いのは。

参加者E：これはなんなんだろう。個人的にはこれ目のつもりで描いた気がする。

筆者：これは奥行きとか。

参加者E：いや、そういうわけではなくて、なんかこう。四角い感じで茶色っぽくて、ちょっと虫っぽいので、ちょっと。あの足がいっぱいある感じで。

筆者：昆虫らしさはどこから感じた？

参加者E：やっぱり匂い、あの、昆虫の外骨格を燃やした時の匂い、でも燃やしたことはないか、でもなんか、イナゴの串焼きとかそういうのの、外骨格が燃えたにおい。

筆者：じゃあ 3 について。

参加者E：あー。これはちょっと構造物っぽい、なんか 3 番目はすごいなんか無機質な感じ。と思ってとりあえず最初十字を描いてみたんですよ。よくよくもう一回飲んでみたら、無機質だけじゃないなという気もしたので、 こうとりあえず植物っぽいものをつけてみて、で、なんかこの上から水を垂らして、で、なんかだらしてみたら顔っぽくなったので顔、口をつけてみただけ。本当に何も考えてない。

筆者：なるほど、いやいや、フィーリングでやってもらうのが良い。

参加者E：うん、植物がいっぱいついてる建物みたいな。ああいうのってこう。構造物と植物が一体化してる感じあるじゃないですか。そういう感じ。

筆者：じゃあ色はまず、構造物と植物と水っていう、そういうものからもらってるんですね。了解です。えーっと、ちなみに 1 番好きだったのは？

参加者E：やっぱ 1 番が一番口当たりがいい気がしましたね、飲みやすい。舌が子供なので。

筆者：逆に一番好きじゃなかったのは。

参加者E：んー、2 番ですかね。独特の癖がなんか納豆のようで、飲んでいくたびに気づいたらはまっていそうな気が。3 番の時そう感じましたね。

筆者：なんか飲んでいくうちに変わりそうな。

参加者E：そうそう、最初、なんか初対面の印象最悪だけど、会っていったら、どんどんみたいな。そういう感じがしました。

筆者：なるほどです。じゃあ、最後に言い残したことありますか。

参加者E：日本酒とか飲まないからわからないなって。いやぁ。

参加者 F

筆者：普段お酒は、日本酒は飲まれますか。

飲みます。

筆者：日本酒一番飲む？

参加者F：なんか近くにお蕎麦屋さんがあって、そこが季節ごとになんか四季の日本酒を選んでるんだけど、その中で私、両親が日本酒がすごい好きで、辛口で東北のお酒が好きっていうのがあって、みんなで飲んでるみたいな感じ。だから種類とか量とか良く飲んでるわけじゃないんだけど。好きですね。福島とか。

筆者:あー良いですね。普段お酒飲んでる中で、どういうこと感じたり考えたりしてますか。

参加者F：私はお酒が好きだから、料理に、なんでも飲めるからこそ、料理に合わせて飲むのが好きで。今日はイタリアンでワインとか。それを意識しすぎて、自分の好きなもの飲みたいっていうよりも、飲んだことがなくて、お店がおすすめしてるのとかを飲もうみたいな感じで飲んでて。あとはそうだ。自分がこれが飲みたくて、飲むみたいなのがあんまりないのと、場の雰囲気とか。

筆者：オッケーです。じゃあ、選び方も結構料理とかその場とかに合わせて。

参加者F：めっちゃ聞いちゃう、お店の人に。この料理には何があいますかとか、どんな感じか聞いて、なるべく自分があんまり試したことないのを飲もうと。

筆者：ありがとう。じゃあ今回日本酒のビジュアルテイスティングをやってもらっての率直な感想を聞いてるんですが。

参加者F：なんかいつもご飯があって食べて、お酒を飲んでうん合うねみたいなことしか考えてなかったから、そのお酒本来の味だけで、こういう味だっていうのは新鮮で。お酒本来の味を考えて飲むのはいいなと思ったし、あと、なんか意外と集中してみると、うん、自分あまりお酒のこと分かってないなって。どういう味わいなのかっていうのは、単体ではわからなくて、そう 1 を飲んでた時はなんか、日本酒だなーしか。2 個目を飲んでから、違いがわかるっていうか。比べてみて、こっちはスッキリだけどこっちは癖が強いなみたいなことを。すごい楽しかった。

筆者：ありがとうございます。じゃあ画像見ながらぜひお話を伺っていきたいですが。1番、おっかわいい。

参加者F：結構まとまってるイメージがあって、それがちょっと細胞みたいな感じなのと、あと、結構スッキリ飲めるなって。日本酒っぽいけど、すっきりしたイメージがあったから、寒色系。細かい綺麗な感じと。

筆者：このかわいい生き物たちはどういうニュアンスで。

参加者F：私はよく物に顔書きがちなんだけど、なんでこれ全部顔書いちゃったんだろう、うん、特に顔を描いたことに意味はないんだけど、めっちゃ元気っていうイメージよりは落ち着いてるなみたいな。

筆者：このスッキリ飲めるっていうところから、色が来てる？飲み口、すっきり飲めるみたいなところから色が？

参加者F：スッキリだし、日本酒っぽい。イメージしてる味、いつもの味がしたの。日本酒ってなんかお水綺麗みたいな、なんか綺麗な川の流れみたいなイメージがあって。

筆者：形は生き物らしさというよりは並んでる感？

参加者F：飲みながらこんな感じ、ゆるゆるした感じ、きちっとした感じではない。

筆者：OK です。では 2 を見ましょう。

参加者F：2 回目を飲んだ時に、あんまり飲んだことがないお酒で、2 杯目を飲んで初めて思ったのが、母親がすごい水っぽくスイスイ飲めるようなお酒が好きだから、今まで飲みやすいお酒を飲んでたのかなって。すごい強い感じを感じたから、1 人 1 人の個性がある。すごいピンクみたいな、強い色があって、でも、日本酒として美味しく飲めるなみたいなのがあったから、さっきみたいにちょっと寒色で描いた。

筆者：割とじゃあ、日本酒の水の感じっていうのが寒色系に現れてる？

参加者F：そうだね、でもいつもと違う日本酒、こういうのあるんだみたいなかんじの。

筆者：この顔も。

参加者F：なんかちょっと強くて、うん、なんか眉毛がある、こだわりのある。

筆者：動きがあるの？

参加者F：1 個目が安定してたから。

筆者：なるほど。じゃあ 3 つ目を見ていきます。

参加者F：こうフレッシュな感じをなぜか感じて、ワインを飲んだ時に、いつも柑橘っぽいなと思うような感じが他のに比べてあるなっていう。だから緑っぽい感じにして、すごい強く香ってくるわけじゃなくて、なんか滑らかに飲める感じがあったから。前が強いイメージがあったから、それに比べてはゆるいイメージが、中のうにょうにょしたのとか。でもやっぱり飲んだことない日本酒だったから、印象強めに。

筆者：このくるくるっていうのも、そういうなんていうか、柔らかい印象のための。

参加者F：これがないと、なんかシンプルになっちゃって、それよりはもっとなんか印象に残るやつ。

筆者：ありがとうございます。じゃあ最後に言い残したことは。
美味しかったし嬉しかった。あとはどういうお酒だったか聞くのが楽しみ。みんな違う？

参加者F：全然違う。でも飲み慣れてるからこそ出てくるのがあったね。

筆者：ありがとうございます。

参加者 G

筆者：普段お酒は飲みますか。日本酒は。

参加者G：飲みます。日本酒はあんまり飲まない。大体は選ばない。

筆者：それは意識的に選ばない？

参加者G：なんか良くわかんないのもあるけど。前初めてどぶろく飲んで。あんまり量多くないじゃないですか。私飲むの目の前にあるんだったら一回で全部飲んじゃうから、多いほうがいいかなって思って。
筆者：じゃあ、普段お酒飲んでる時にどういうこと考えたり、感じたりしながら飲んでますか。
参加者G：一人であんまり飲まない。人と飲む時は、酔っ払いたいみたいな。ちゃんぽんして一回吐いたので。気持ちよくなれたら嬉しいなって。
筆者：今回日本酒のビジュアルテイスティングっていうのをやってもらったんですが、率直な感想を教えてください。
参加者G：こんなに味違うんだって。今まで一種類とかしか飲んでなかったから、テイスティングとか、三種飲み比べみたいなのが初めてで。日本酒ってこんないろんな味あるんだって。イラストは普段から描いてるけど、みんながどういう絵描いたのか気になる。
筆者：じゃあ酒 1 は。
参加者G：爽やかな感じで、飲みやすかった。飲みづらさがまじでなくて、笑ってて。最初縦で描いたけど、それに丸いイメージ。うん、最初やって書いたからこれつけたけど、丸でもいいかなみたいな。伸ばす棒（飲みやすい～）みたいなイメージ。
筆者：色は、淡い黄色なのはどういうイメージから。
参加者G：色は淡い色で、黄色は爽やかさで、プラスのイメージ。
筆者：酒 2 は。
参加者G：美味しいが、石油っぽい感じ。なん。最初描いた時、ちっちゃくぎゅっとしてる尖ってるみたいな。でも、そんな言うほどバキバキでもないから、その下はしずくっぽいかんじかなって。でも、紫よりもっと黄金色みたいな。集中線のイメージはあります。癖あるな、って。
筆者：集中線っていうのは。
参加者G：凝縮してる感じ。
筆者：色は石油っぽさ。
参加者G：そう、あ、でもこれ書いたの後だから。でも、黄色使いがちっていうのは普通にあるかも。
筆者：酒 3 は。
参加者G：最初苦手で、最初飲み始めと、飲み始めた後がイメージ違って、最初はフルーティで弾ける濃い感じ。なんか、1 個目は薄い淡色っぽい感じで、なんかパッションな感じかなって思ったんだけど。なんか後で飲んでいったら、なんかもっと平べったい。ペーストっぽい感じになって、四角。
筆者：2 回目ってことは、後味みたいな？

参加者G：3 回目とか。最初パーンってくる感じだけど、でも冷静になったらこうだよねって。最初これ描いたけど、そのあと見てたらあれ違った、みたいな。

筆者：色はフルーティさから。
参加者G：そう、こっちはちょっと色褪せててもいいかなって、だからちょっと彩度落ちてる。

筆者：言い残したことは。

参加者G：ありがとうございます。インタビューとアンケートしてるのえらい。

参加者 H

筆者：普段お酒はどれくらい飲みますか。

参加者H：週 6 くらい。いや、週 5 ですね。肝臓やっちゃったので。

筆者：大丈夫？ えっと、日本酒は？
参加者H：家には 1 本ストックしてあって、日本酒が家で量を調節しながら飲むのが 1 番いい。あと、なんか、 20 歳の誕生日迎えた時に、あ、日本酒 5 個飲み比べセットみたいのを友達にもらって、最初はあんまり好きじゃなかったんですけど、5 本もあるとやっぱ飲まざるを得なくて、飲んでたらだんだん好きになりました。

筆者：普段から家で飲むものが日本酒。
参加者H：あと、あの横浜に日本酒飲み比べ用の店とかがあって、そういうとこ行ったり。基本的にどのお酒も好きなんですけど、ワインと日本酒は特に飲み比べ甲斐がある。飲み比べたり味わったりっていうのが好きです。
筆者：なるほど。じゃあ普段お酒、特に日本酒を飲んでる時にどういうこと感じたり、考えたりしてますか。
参加者H：やっぱ日本酒美味しくてするするのめちゃうやつとか、美味しいけど、すごい悪酔いするやつとか、そこをリスクヘッジ的に見分けようっていうのはずっとあって、

筆者：結構見極めとかを自分で。

参加者H：ある程度の値段も加味して、なんとなくは。
筆者：了解です。ありがとう、じゃあ、ちょっと今回こう日本酒のビジュアルテイスティングをやってもらった率直な感想、どうでした？
参加者H：なんか例えばまず共感覚ってところから言うと、若干は元々あるタイプで、日本酒に対しては特になくて、うんなので、ま、意識的に今回は思い出したんですけど。あとはどんな食べ物に合うかとか、もっと具体的なことに関してイメージをしてて、それに対して、逆に抽象度を上げて抽象的に全体的に捉えた。で、あと、今話してて思ったのは、でも、普段からそのイメージは大体、なんていうんでしょ。ワインと日本酒比べたら、日本酒の方がビジュアルティスティング的なことは元々や

ってた。ワインとかビールはもっと感覚的な感じだったなと。日本酒の方がその広がり的なものを本能的に感じてたなって。

筆者：共感覚っていうのは具体的には？

参加者H：音楽聞いた時にビジュアライズされる。だんだん弱くなってきましたけど。幼い頃からピアノやってたので。

筆者：なるほど。じゃあイラストを見ていきましょう。酒 1 は？

参加者H：最初に川のイメージがあって、2 回目の二口目飲んだ時に、光のイメージがあったので、ただ、川よりも後ろに光があると思ったので、ただ、アルコールの漂う感じみたいな感じなので、そ下の白いの塗って、うん、漂う。

筆者：川の色、青で光の雪色であたアルコールが白。

参加者H：なんか、色はここでこれは霧みたいなイメージ。

筆者：結構時系列？

参加者H：そうですね、1 口ずつ加えるごとにこのビジュアルが 1 個ずつ足されていった感じです。

筆者：OK です。2 はどんな感じかな。

参加者H：最初にスモーキーな感じがして、それがもうまず茶色です。はい、ただ濃い茶色ではなく、薄い、なんか本当に一瞬のスモーキーを感じたので、それを底面に漂わせて、そのあとすごい、水っぽいクリアな、特に感じない感触があるので、空間、空気っぽいものを灰色で丸く漂わせようと思ってました。味の濃さ的には一番薄いかなと。薄いというかクリア。でアルコールぶんは 1 が一番感じた。

筆者：霧とか空気とかそういう雰囲気が出力されたと。

参加者H：結構自然風景の出力が私はされました。

筆者：酒 3 は。

参加者H：これは 3 が 1 番難しかったですね。ていうのも一番好きな味ではあったんですけど、だからと言ってどう出力すればいいのかって。いっぱい線を重ねたんですけ ど、そしたら、薄い感じなんですよ。どちらかといえばもうピンクとか、薄い肌色みたいなものが抽象的にあって、でも本当に薄いみたいな。だから、それこそちょっと白いベールに包まれてて、うっすらピンク。やんわりした、オーブみたいな。

筆者：逆にあんまりっていうのは。

参加者H：一番目があんまり好みではなかった。

筆者：経験値出るね！最後に言い残したことは。

参加者H：すごい楽しかったです。

参加者 I

筆者：普段酒は飲みますか。

参加者I：そうっすね。なんかうち、ちびちび飲むのが好きで、なんか知らないんだけど、ワインのね、本当グラスこんなもん（小ささのジェスチャー）を毎晩飲むみたいな。俺も付き合いで一緒に飲んでるの。でも自分は結構日本酒の味が好きなんで、日本酒もちびちび飲んでて、ひと瓶を 1 ヶ月とかかけて飲むみたいな。

筆者：普段飲んでる時にどういうこと考えたり、感じたりしながら飲んでますか。

参加者I：結構料理と一緒に飲むとか、酒だけを味わうってことあんまないんだけど、考えながら。そんなにこだわって飲んでないかもしれない。選んでもらったやつ（予備実験の際の酒）は、珍しくちゃんとお酒だけで飲んでみようと思ったら、すごいこんな面白い味するんだって良く分かった。日本酒ってやっぱちょっとこう甘みもあるし、なんか料理に合う感じがして、あんま深く考えて飲んでない。

筆者：なるほど。じゃあ今回日本酒のビジュアルテイスティングをやってもらって率直な感想は。

参加者I：こんな味って変化するんだなっていう。あとテイスティングって思って臨むから、口の中で転がすようにして飲むっていうか、すると、なんか最初のこう舌触りと、また、そのごくんって飲んでからの香りとかも全然違うし、 そういう日本酒の多様な面というのが、なんか料理と一緒に、ただ単に流すような感じとは全然違うっていうかね。味にこんな豊かさがあるんだって思った。あと、やっぱ日本酒多分違うの選んでくれたと思うんだけど、その全然違うの。それにしたってこんなに違うんだと思って。

筆者：はいはい、了解です。じゃあイラストを見ながら、1 番からですね。なんかこの前の（予備実験）とちょっと似てる感じが。

参加者I：そうね。なんか、やっぱ味が変わっていく感じがあるから、4 コマ漫画じゃないけど、どうそういう感じで捉えようと。

筆者：オリジナルだよな。ぜひ解説を。

参加者I：あ、なんかやっぱね、すごい甘ってなんかまず来たから、あの、なんだドロップじゃない。もうすごい甘い、で、なんか丸っぽいイメージっていうか。あと色をつけるとしたら、やっぱ甘さで、やっぱ桃とかピンクとかそういう感じかなっていう。で、なんかそれでその後ふわって感じがあったんで、なんかピンクのままふわってなると、うん、あ、なんか花が舞ってるのが適当かなっていう。そ、なんか、直接バッて浮かぶわけじゃないの。翻訳するとしたら、何が近いってことを考えて、うん、そういうイメージで。あと、やっぱ漫画的に考えるから。元のものがピンクだったら、次のものをピンクって寄りがちだから、っていうのもあると思う。結構連想ゲームみたいになってるかもしれない。だから、ちょっと最後はその、ちょっとポカポカした気持ちっていうのが、なんか、花ってイメージからポカポカっていくと、なんか寝転んでるみたいな、その草むらで寝転んでるみたいな感じかなと思って。

筆者：だんだんこう広がっていく感じが。じゃあ他のやつと比べても見ていきたいので。2つ目は、おっずいぶん違う。

参加者I：いや、なんかあの前「剣菱」飲んだことがあって、なんかすごい似た感じだからかわかんないけど、剣菱のイメージしかもうしなくなったんで、それに釣られたっていうのはあるんですけど。スモーキーな感じで、それで茶色っぽい燻製っぽい。 で、なんか剣菱が浮かんじゃったからひし形だろうなっていうことと、あと、なんか広がるっていうより沈むっていう感じがして、それでこうすごい落ち着いた、なんか、こう深いっていうのか、なんか年老いたみたいな。なんか、すごくこうさっぱりもしてるし、なんか変にうわぁって感じじゃなくて、そ感じがあったんで、なんかじゃあひし形が浮かんだら、その次は多分沈んでく感じかなっていうようなイメージを描いて、最後なんかうん。おじいちゃんの後ろ姿っていう。なんか、それ描いたらなんか釣りとか合うなって。連想的になんか釣りしてるおじいちゃん。

筆者：茶色のイメージは、深みとか年老いたとか。

参加者I：そうそう。

筆者：ほんまに漫画やな。じゃあ 3 は。えっ何これ。

参加者I：僕本当飲んで、えっな、何これっつって、めっちゃしかめっ面しちゃって。イカかタコの触手みたいなので、なんかちょっとネバネバした感じがあって、で、なんか香りがなんとも言いづらい、すごい癖があることはわかって、イカ？みたいな感じで、なんかね、粘っこさに釣られて、触手みたいな、なんかわけがわかんない感 じ。そうで、なんかそれを味わってくと、なんかわかんないけど、なんか野菜じゃないけど、 なんか苦いような臭いような。なんかそういう香りがしたような気がしてこう、ブロッコリーみたいなの書いちゃったな。そういうの感じたかな。そんなに、味の段階的にはそれ以上は続かなかったので、この辺は消しちゃったかな。一番、え、これこんな味あんのって感じた。一番びっくりした。

筆者：じゃあ一番好きだったのは？

参加者I：1 番…一番やっぱ飲みやすい感じはあった。でも、なんかそのずっと飲んでられそうなのは 2 番かな。すごいさっぱりしてるし。

筆者：ああやっぱり、飲酒歴みたいなの出るね。でもあんまり 3 は飲み慣れなかった。

参加者I：そう飲み慣れなかった。

筆者：なるほど、いや面白い。ありがとうございます。

参加者I：なんかみんなの結果も気になる。

筆者：最後みんなに共有と答え合わせをするので。最後言い残したことは。

参加者I：いや、何もない。

筆者：オーケー。ありがとうございました。

参加者 J

筆者：普段お酒は飲みますか。
参加者J：えっと、自分からは飲まなくて、なんか付き合いとか人に誘われて飲みに行くというの。1 人飲みとか絶対しない。

筆者：日本酒は。

参加者J：日本酒もだから全然飲まない。今日なんか人生で、3 回目とかそんなレベル。意外と飲めるやつがあるなって。
筆者：あ、よかったよかった。なるほど、じゃあ普段こうお酒飲む時、付き合いで飲んでる時でも、こうどういうこと感じたり、考えたりします？

参加者J：お酒の味に関して？

筆者：とか、お酒を飲むこと自体に関してとか。
参加者J：基本的にはアルコール強いのは苦手なのね。だから、サワーとか、お店によって全然違うじゃん。だからうわ、強いみたいな時はこれ飲み干さなきゃいけないのか〜ってテンションになって結構辛い。飲み会の雰囲気とか、楽しく飲むの自体は好きだから、飲めたらいいねもっとね。あと何考えてるかな。

筆者：味についてとか。
参加者J：えっと好きなお酒が、それこそサワー系とあと書いたけど、ワインとかね。その2つだったら、結構自分から頼みたいので、それは飲みたいで、あと、胃が小さいのかわかんないけど、量を全然飲めないの。炭酸がいっぱい来たりとか、なんかビールとかはきついよねえ、そういうの以外で、ちびちび飲んでうん、楽しく過ごすのが好き。味はアルコールあんま強くない、炭酸入ってない、で、ちょっと甘めフルーティめって感じ。味覚がお子ちゃまなんですよ。
筆者：いやいや。オッケーです。じゃあ、えっと、今回日本酒のビジュアルテイスティングっていうのをやってもらったんですけど、率直にどうでした。感想を聞かせて欲しいです。
参加者J：あのね、こんなに自分に、見る力があると思わなかった。見えるんだね。最初さ、他の人のゼミ論見れるじゃん。「何をやってるんだろう」って。すごい、スピリチュアルな世界もあるもんだなと思って、外から見てました、正直。それは本当にごめんなさい。あるね、あるある。結構目閉じるとありますわ。

筆者：よっしゃ。
参加者J：ていうのが、めっちゃ面白かった。だから、結構知りたいのは他の人のやつよね。なんか先に飲んでた人のもちらっと聞いちゃったりもして、書いてあったりで。

筆者：じゃあそんな画像について見ていきたいんですが、1 番。

参加者J：ひどいですね。ほんと。

筆者：いやいや、どういうイメージ？

参加者J:まず、1 番はシンプルに飲みやすかったんですよ。普段日本酒飲まない身からしても、もうすごく飲みやすかった。うん、甘くて。なんて書いたかな、なんか、春のような菜の花畑のような。ワイン買いに来る起業家が言うみたいな口調で書いちゃったんだけど。なんかそういう言語化がいいんだと思って。っていうぐらいあれは結構すぐ飲んだよね。飲みやすかったからだと思う。

筆者：色は。

参加者J：色は、やっぱりそのお花感というか、甘い感じ、明るい感じがあって。うん、でもすごいアーティスティックな表現になっちゃうけど、色っぽくはない。ピンクと か、妖艶な感じじゃない。

筆者：子供、子供っぽくはないけど。

参加者J：まあでもそうかもうん、そういうのもあるかもしんない。これは結構人と違いますか。

筆者：いや、結構今普段お酒飲むかどうかとか、色々なファクターで変わってきてて、結構

参加者J：お酒を飲まない人の中ではこういう傾向出やすいなっていう感じになってる。すごいね、やってみてよかったって感じ。うん、じゃこの形がお花畑で。
うん、もう角がなくて、もこもこって。そう先に言っとくと、2・3 はちょっと苦手だった。それが現れてる絵になった。

筆者：（2 を見て）あ、現れてる。その心は。

参加者J:辛って思った。辛い。キュッと行った時にこう舌が刺されるような感覚というか。飲み慣れてたら違うんでしょうね。って思いました。最初になんか、1 の時は目を閉じるようにしたよね。で、2 番の時は目閉じる前にこの青い線が。ビジュアル感覚が進化した。

筆者：その短時間で進化した。

参加者J：最初に青い線が来て、こう名残り、その口に残る感じとかが周囲にあるものですかね。

筆者：刺される、辛い感じ。

参加者J：うん、この中だと一番苦手かも。

筆者：じゃあ 3 を見ていきましょう。

参加者J：3 はですね、飲めました。飲めちゃう、飲めるっちゃ飲めるっていう感じで、辛かったんだけど、飲みにくくはないで、ちょっとね。渋い感じが。だから、それが茶色に。渋いというか、どっすり来る感じ。で。あと、ちょっとこの残り香というか、最後の風味がこのピンク。鼻に抜ける香りとかはするけど。

筆者：好きだったと。

参加者J：最初に茶色が来た。いや、これダメかもと思ったら、あ、なんかちょっといいかもって。ただ、まあ、1 よりはちょっと角あるかなっていう。普段飲まない人が偉そう。

筆者：いや、めっちゃいい意見。逆に日本酒ビギナーの模範回答みたい。ありがたい。ありがとうございます。最後言い残したことありますか。全体を通してとか。

参加者J：こういう回たくさんやろう。日本酒以外でも。期待してます。

参加者 K

筆者：普段酒は飲みますか。

参加者K：なんか、周囲の人間が飲むんであれば、全然それにつれては飲むんですけど、嫌いとかではない。別にどっちかっていうと、好きではある。だからって、別になんか詳しいとか知識があるとかではない。

筆者：じゃあ普段まあ、日本酒だけじゃなくて、選ぶ時とか、飲んでる時とか、どういうこと思ったり感じてますか。

参加者K：まあ、こんなこと言ったら元も子もないかもしれないど、別に多分酒そのものっていうよりは、多分そこでおこなわれるコミュニケーションを楽しんでるって感じなので。良くも悪くも多分置きに行ってると思うんで、別に多分最初基本的にビールぐらいしか頼まないし、うん、まあハイボールだったら別にいいだろうとか、そういうスタンスで多分。あ、なんか冒険するとか、なんか純粋にその酒が美味しい、美味しくないとかっていうよりは、なんかま、多分基本的に置きに行ってる。

筆者：なるほど。じゃあ今回日本酒のビジュアルテイスティングをやってもらって率直にどうでした。

参加者K：やっぱりビジュアルにするのは難しいなって。まあ、グラフィック制作みたいのをしている方だと思うんだけど、やっぱり抽象概念を抽象グラフィックとして映すのはめっちゃ難しいなと思って。やっぱり今回もそれはなんか自分の中ではうまくできなかったなと。結局なんかそんなにこうパラメーターを変えることができなかったなって思い返して思ってて、今回使ったツールがAdobeの Fresco を使ったんだけど、あれって結構ブラシの硬さいじれたりとか、大きさいじれたりとか色々するけど、なんだかんだなんて言うんだろうな。こうなんか、にじんでいく感じの。その水彩のブラシで、すごいブラシサイズを大きくしてやればまあそれっぽくなるかなっていうので。だから、多分実質的に自分がいじったパラメーターっていうの が、プラシの大きさとかはいじってなくて、多分、本当に書いた抽象物のシェイプだとかは、あと色か。っていうだけのパラメーターでしか。結局それでしか表現できなかったと思っています。そんなに日本酒を飲むとか、やっぱり元々味覚の情報をビジュアルアイズするっていう、まあそんなしてる人いないと思うけど。している経験がないからこそ、なんか自分の中での基準がない。ああ、特にあの 1 個目に飲んだのはなんかなんでもないものを作ってっていう印象。それを 1 個基準として、そっからなんか例えば色だったら暖色系に転ばすとか、寒色系に転ばすとかっ

ていう判断をしてったから。1 個目は別に、自分の中でも絶対評価だけど、基準となる情報の少ない状態での絶対評価だったなって思ってて。そういう点ではうん、なんか絶対的に一個一個のグラフィック見るっていうよりは、1 と比べて 2 はどうだとか、1 に比べて 3 はどうだとかっていう見方をするのが正しいのかな。っていう風に。

筆者：じゃあ、それで見ていってもらう感じで、1 から。

参加者K：1 個目はやっぱり基準が自分の中になかったから、多分全部中間点をとった。暖色よりでも寒色よりでも、まあ暖色よりではあるけど。なんか自分の中で飲みやすかったって印象あったから、ちょっと暖色系に寄せてのまあ、でもまあ今後のこと考えて黄色とか。形としては個人的には飲みやすかったっていう印象から丸くしたっていうぐらいの。それぐらいの緩い感じ。あ、そう、緑入れたのもなんか、黄色一色でいいんかっていう。

筆者：じゃあ 2 は。

参加者K：まこっちはなんか明らかになんだろう。味が薄いっていう、そういうふうに感じ て、個人的には若干癖が強いなって、あ、だから、多分こう円形っていうよりはどっちかっていうと、四角に近い。色は寒色によった。

筆者：それはどういう要素から？

参加者K：自分の中でも多分パラメーターで飲みやすければ暖色によって、ちょっと飲みにくいなと思ったら寒色によるみたいな、そう言われると多分あると思ってて、多分、それは出ている気はする。基本的に色味は味から来ている。シェイプの部分で四角いとか、角が角ばってるとか、丸い角が丸まってるとかっていうのが、口当たりとか、1 番最初の匂いとかなかなっていうところによってる。

筆者：3 は。

参加者K：個人的にはなんか、1 番最初のファーストインプレッションで、口に持ってった時に、結構匂いはするていう風に思っていて、まあだからといって、なんか 2 みたいなこう薄さっていうのは感じなくて、これで紫を選んだのも、1 と 2 の中間だから紫にしたみたいな。1 を基準にして、そっから暖色によるのかどうか、暖色にはあんまりよらなかったけど、っていう判断は自分で適用して。何がフラットかは多分

人によって違うけど、そこの基準が、今回実験受けた時にはそれがなかったけど、そこの基準によって、多分 2・3 ってめっちゃ大きく左右されるのかなって思っている。

筆者：形は？

参加者K：個人的には 3 が 1 番、癖強いのか、匂いが結構自分の中にあるのかなって思っていて、結構後々思ったのは、ちゃんとなんか 1 口目で描かないと、その後って結構なあなあになるなって。

筆者：それはあるかも。じゃあ言い残したことはありますか。

参加者K：やっぱり俺が苦手っていうのもあるけど、抽象的なものにするのは難しいなと思ってて、こうやってプレビューで見る限りでも、多分他の人より俺のってめっちゃ情報量少ないと思う。

筆者：シンプルではあるかもね。

参加者K：逆に俺は抽象物に情報を与えるのが苦手っていうのがあって、だからこそ、情報をどんどん絞ってっていう節があると思うから。差はこう見えていると思うけど、自分の中で差を理解しているっていうよりは、表現するのであれば、そういう差をつけざるを得ないかなみたいな、結びつけている節があるとすごく思う。これを書いた当人のバックグランドじゃないけど、グラフィック制作っていう点において、なんかどういう性質があるのかとかっていうのは、めちゃめちゃ左右してくるのかな。